

## 子どもの問題に悩む 母親と姑の葛藤

家庭問題情報センター・日本女子大学教授 岡本吉生

今年の春に有名私立中学校に進学した一人息子の肇くん（肇くん）と一緒にカウンセリングにいらつしやいました。学校でのいじめが疑われましたが、はっきりとしませんでした。

その数日後、聡子さんは、切羽詰まった様子で、突然、こちらに來られました。

**聡（聡子）** すみません、突然で。

**カ（カウンセラー）** どうされたのですか。

今日は二十分くらいしかお時間が取れませんので、よろしくお願ひします。

**聡** はい分かりました。この前いろいろ話を聞いていただいて、ありがとうございました。

それで家に帰ったら、おばあちゃんから「どこへ行っていったの」と聞かれたので、「こういう理由で心の病院のようなどころに行つたんだよ」と話したら、おばあちゃん（肇を）と口ゲンカになつたんです。

**カ** どういう点でケンカになつたんですか。昔の人ですから、人目を気にしたんですか。「肇を」精神病院に連れていった」と大騒ぎになつたんです。「それなら学校を変えて、環境を整えたい方がいいんじゃないの」と言われ、私としても頑張つて、ここへ来たり、息子の話を聞こうと努力しているのに、とカチンと來ました。

**聡** そのとき、肇くんはどうしていましたか。そばで困つた顔をしていました。すつと部屋に戻つてしまいました。後で、またカ

ウンセリングに行くかどうか聞いたたら、「行かない」と言つていました。

それで、先生に話を聞いてほしくなつて、突然、來てしまいました。

**カ** 今日ここへ來られたことは誰かにお話にりましたか？

**聡**（首を横に振りながら）いいえ、だれにも……。

**カ** お母さんはこの前の面接のとき、いじめを心配されていましたが、どういふところ（いじめ）だと思われませんか？

**聡** 小学校時代から友だちと遊ぶことが少なかったですし、最近、早退してきたり、頭痛がするの、心理的なこと、いじめが原因のじゃないかと思つて、とにかく心配で、心配で。

**カ** でも最近、朝はきちんと学校に行つていますし、早退も週に一、二回に減つていますよね。お母さんが心配されるのは当然ですが、私としては緊急事態ではなくなつてきていると感じます。

ですから、少し問題を整理して、腰を据えて対応していきましよう。いかがでしょうか。

**聡** ええ、そうですね。私とおばあちゃんと言ひ争うので、肇も言ひにくいよう……。

**カ** おばあちゃんも心配で、とても知らん顔をしていられないんでしょうね。

しかし、ぶつかってしまうのもつらいですよね。

**聡** おばあちゃんの心配もよく分かるんです。たった一人の孫だし……。

**力** でも、私にとっても一人息子です、肇は。そうですね。ただ、おばあちゃんが心配です。その意見や提案が、口出しに聞こえるのでしょうか。

**聡** そうなんです。この前も「公立に転校すればいい」と言うので、中学受験でどれだけ肇と私が頑張ってきたか分かってないと感じてしまっただけです。

**力** 小学校で塾に行かせたときも、おばあちゃんは「塾に行かせなくても……。もつとのびのび育てたほうがいいんじゃないのかね」と言っていました。そう言いながらも、肇が中学校に受かったときはとても喜んでくれましたけれど。

**聡** そうですか。おばあちゃんも気持ちが揺れているんでしょう。肇くんの様子を見かねたり、お母さんの悩む姿に歯がゆさのようなものを感じたり……。

**力** 昨日も肇は早退してきましたんですけど、そのときもおばあちゃんは「いいじゃないの」と言うんです。私としては勉強の遅れが心配です。

**力** 父親に「学校に行け」と言ってほしいのですけれど……。

**聡** はあ、ちょっとだけ。仕事が忙しいので、気を遣ってしまいます。

**力** もうちょっと早く帰ってもらって、少し心配ごと話したいし、肇の相手もしてほしい。私とおばあちゃんの間に入ってほしいときもあります。

**力** そういってお気持ちや、聡子さんとおばあさんとの言い争いについて、お父さんに言ったことはありませんか。

**聡** それはいいですね。夫にいろいろとお願いをすると、おばあちゃんが口を出してきそうなので。

**力** 実は、夫も一人っ子で、おばあちゃんが手塩にかけて育てた可愛い息子なんです……。

**力** これは研修生の面接に対するスーパードヴィジョンの事例です。

息子の肇くんがいじめや学校不応から始まった相談でした。実のところは、肇くんの問題をめぐって姑と意見が異なることが、さらに聡子さんの悩みとなっていた事例でした。

何を相談の主訴とするかは、時と場合によって異なりますが、この場合は少なくとも肇くんのことに対して家族が一致した対応をすることが大切でした。

家族療法では、肇くんの問題や症状は家族の中にある機能不全の現れと考えます。

祖母は仕事にかまけて家族の問題から距離を取っている父親の代弁者として母親に意見を言う役割を担っていますが、それは祖母と母親との問題と言うよりも、夫婦の結びつき（夫婦連合）が問題解決力を持つにいたっていないほど希薄であるためと考えることができます。

ですから、聡子さんが言うように、肇くんの問題に父親が母親と協力してかわることで夫婦連合の強化となりますし、祖母をこの問題から少し距離を取ってもらうことにもなります（世代間境界の形成）。家族のカウンセリングでは、表面に現れる問題（症状）の背後にある隠れた家族のシナリオを紐解く作業を行うのです。

この事例では、時間がかかりましたが、父親がカウンセリングに登場することで、肇くんの改善に向けて大きな変化が見られました。

